関東道路㈱

遊歩道に笠間焼利用

工芸の丘内で舗装工事

関東道路㈱（筑西市下川島635、武藤正浩代表取締役）はこのほど、笠間工芸の丘敷地内で笠間焼陶磁器くずを利用した道路舗装「透水性笠間陶磁器樹脂舗装工事」を実施。場所はクラフトカフェ横のバックヤード搬入口で、約37m、幅員1・65mの施工を行った。

笠間焼について、割れなどで使えなくなった陶磁器は年間4～5tが廃棄されているのが現状。一度焼かれた陶器は土に戻らないため、廃棄されたものは最終処分場に持ち込み埋め立て処分を行っている。

同社は、笠間市の環境都市（ゼロカーボン・プロジェクト）の一環である笠間焼陶磁器くずのリサイクル実現に向けた提案として、笠間焼陶磁器くずを利用した歩道舗装を提案。笠間市環境政策課の協力のもと、笠間工芸の丘で舗装整備を実施した。陶器くずを利用した歩道舗装は県内初とのこと。

武藤代表取締役は「笠間焼の破片がモザイク模様となり、きれいで優しい色合いの遊歩道となった。笠間市らしい舗装になったのではないかと思う。ここを起点として、事業を広げていきたい」とコメントした。

なお市は歩行の安全性の確認の上、市内全体への事業拡大を検討しているとのこと。